

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890200363		
法人名	株式会社 湘南みどり園		
事業所名	グループホーム花樹ひたち	ユニット名(ワクワクBユニット)	
所在地	茨城県日立市日高町2-7-10		
自己評価作成日	令和 1 年 9 月 13日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設や職員の都合に合わせてではなく、利用者の思いに寄り添い、一人一人のペースに合わせて、「ゆつたりの心」で、心のこもった介護をすることを目指している。職員一人一人が、認知症の理解とケアの仕方を深く学び、実践していけるよう、施設内外にて研修に参加し、レベルアップを図っている。利用者のできることに目を向けて、その力を発揮してもらうことで、個々人の自立を支援していく。日々の日常の中で、より刺激となり、楽しみとなるようなイベントを企画し、利用者楽しんでいただいている。日々、手作りの家庭料理を作り、満足していただけるような食生活を送っていただいている。家族が安心できるよう、面会時や電話、メールなどで生活状況などを説明し、連携を図っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和 1 年 10 月 16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や各ユニットに掲示し、日々目で見 て、実践につなげている。また、新人教育に おいて、事業所の理念の大切さを説明し、 日々業務に生かしていただいている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	地域のお祭りや近くの保育園の園児と交流 をしている。地域のボランティアの方にも来 ていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	運営推進会議などで、認知症の方の支援方 法に関する実例報告などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	他のグループホームの方から紹介してい ただいたものを参考に施設にてドリームプロ ジェクトを企画し実行している。地域との連 携についての意見をもとに、地域のボラン ティアとの連携などをさらに充実させてい ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などを通じて、市町村担当者 と連携をとり、事業所の実情やケアサービ スの取り組みなどを積極的に伝え、協力関係 を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、職員全体に身体拘束 をしないケアの実践の重要性を理解してい ただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意 を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を行うとともに、施設 内にて虐待がないよう、声掛け見守りをス タッフ間で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	こうした制度の需要の増加も見込まれるので、今後、研修などを行っていきたいと思っている。外部研修などで学んでいる職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族とは、契約の締結などにおいて、十分な説明を行い、理解納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族等が、気軽に意見、要望などを言える雰囲気作りをしている。意見、要望などをもとに、皆で検討し、具体的に運営に反映もしている。毎月の全体会議においても皆で意見を出し合い、検討などもし、運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞く機会があり、話しやすい雰囲気作りをしている。職員全員にアンケートなども実施している。個別の面談を行うこともある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が、職員と個別に面談を行うこともある。職員全体にアンケートを行ったりもしている。意見箱なども設置している。		
		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議の際に、必ず何らかの研修を行っており、また、新人職員の研修もその都度行っている。認知症介護実践者研修は、すでに5人終了しており、基礎研修も2人終了している。その他、社外研修にも補助金を出し、受講していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に別の事業所のグループホームの職員を毎回呼び出している。グループホーム連絡会、懇親会などにも積極的に参加し、交流を図っている。他の施設のイベントにご利用者様をお連れしたこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からもお話を伺ったり、毎日の行動などから、出来るだけ意向を取り入れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からも積極的にお話を伺うようにしている。利用者との面会時等にも、ご家族へのお声掛けに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族もそうだが、まずご本人の意向を第一に考え、サービスの支援を考えている。本人、ご家族が望む暮らしをヒアリングをし、それを支援につなげられるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、時にはこちらから相談をさせてもらったり、尊厳ある存在として一人一人と接している。日常生活の中で、出来ることなどは声掛けし、手伝っていただけるよう働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を共に支えていくチームのメンバーとして考えている。なるべく家族の方には、本人の日常生活状況を話すように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつもでも気軽に来所していただけるよう支援している。ご本人にとって悪影響にならない方々の面会は歓迎している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格、行動をきちんと把握をし、レクリエーションなども全員で楽しめるものを行っている。アクティビティなども利用者が互いに協力しながら行ったりもしている。利用者が不穏になった際も、利用者どうして自発的にケアの声掛けをすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、施設を退所された利用者はいないので、まだ、そういった支援は行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ家と同じように暮らせるよう、ご本人の意向を聞きながら、暮らしていただいている。利用者との信頼できる関係づくりをしている。また、毎月のユニット会議などにおいて、意見交換などをし検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントなどに目を通し、生活歴などを把握するようにしている。それぞれの居室に、馴染みのものを自由に置いていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	皆一緒ではなく、ご自身の体調や気分も日によって違ってくるので、ご本人が無理をしないよう見守りをしている。バイタルサイン、表情、言動、睡眠状態、排泄、ADL、QOLなどで、本人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントをし、サービス担当者会議にて話し合いを行ったことなどをケアプランに取り入れている。家族とはラインや電話で状況を説明し、意見を取り入れ計画を考えている。		
		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送り、連絡帳記入、Ipadの特記事項をもとに見直しをしている。記録においては、できるだけ本人の言った言葉をそのまま書くよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ドリームプロジェクトなども含め、今やりたいことをヒヤリングし、それを実行している。一人一人に合ったケアをするように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの歌や踊りなど、日々、楽しみができるような支援を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ希望されている病院に受診していただいている。訪問診療を受けられているご利用者は、月二回のペースで、定期的に往診していただいている。本人の状態は、家族へ報告しながら、往診医へも伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化はナースに報告し、迅速で適切な対処をしていただいている。個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。問題は共有できるよう、連絡ノートなどを活用し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族から情報をいただいたり、直接面会に行った際や電話連絡などで、病院関係者との情報交換や相談に努めている。入院になった際は、サマリーを提出している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ご家族様に書面にて確認しているが、その後は特にそうした話し合いは行っていない。利用者が、病状の変化があった時には、話をする必要があると考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り、各ユニットに置くようにする。緊急対応した際には、その実践を今後に生かすようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などを実施し、今後は地域住民や消防署なども連携をとり、協力体制を築いていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人の生活歴なども考慮し、一人一人に合ったお声掛けをしている。本人が、混乱しやすい状況や、落ち着かない状況を作らないよう、お声掛けをしている。時にふさわしくない言葉かけや対応をしている場合は、スタッフ同士で声掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分に配慮し、無理強いや絶対しないよう心掛けている。ドリームプロジェクトを企画し、一人一人の希望を叶えるように進めている。入浴時の衣類の準備は、決定する前にご本人に聞くようにしている。何事においても自己決定は利用者と考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ自由に個人個人のペースで生活をしていただくようにしている。移動が車椅子の方は、行きたい場所に自分で移動できない場合もあるので、言葉かけを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着過ぎなどに気を付けながら、洋服に関しては自由に選んでいただいている。マニキュアを塗るなど、楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	薄味を心掛けながら、その中でも美味しく食べていただける工夫をし、見た目でも楽しめるよう、彩などにも気を付けている。片づけは、毎回、利用者と一緒にしている。皆様より、「この食事は美味しい」とおっしゃっていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者、一人一人の状態に合わせて、調整をし、健康に心掛けている。定期的な往診により、採血等も行い、毎月体重測定も行っている。夏は水分を多めにとっている。入浴後も、水分は必ず摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをご自身でできる方はしていただき、介護が必要な方は、サポートしながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子の方も立位が可能で、全員トイレでの排泄を心掛けている。夜間帯もオムツを使用している人はいない。夜間帯、車椅子の方なども、声掛けにてトイレ誘導などしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が豊富な食事や、牛乳、ヨーグルト、オリゴ糖、オリーブオイルなどを摂取していただいている。毎日の朝の体操を行っている。下剤を服用されている方も多いが、個々人の消化器の状況により、内服コントロールもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は、それぞれ決まっているが、無理強いせず、楽しく入浴できるよう工夫している。職員配置の都合上、夜間帯の入浴は行っていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネンの清潔を心掛け、その日の体調などを考慮し、適度な休息をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について、質問がある場合は、薬剤師に聞くように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴、現在の状態、本人の意向を考慮し、気分転換を図ってもらっている。イベント、レクリエーション、アクティビティ、食事など、皆が楽しめるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月に一度は、外食会のイベントを行っている。近くを散歩したり、庭の植物の手入れをしていただいたり、地域のイベントに参加したりもしている。今後、ドリームプロジェクトなどを通して、普段いけないような場所などへの個別の要望にも応えていけるようなことも考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人管理の下、お金を所持していただいている利用者もいるが、基本的には必要性がないので、個人でお金は所持していない。もしお金が必要な場合があれば、こちらから建て替えにてお金をお貸ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望があれば、電話をしていただいたり、手紙も書いていただいている。親戚の方との手紙のやり取りを定期的にされている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも清潔、清掃を心掛け、エアコンを適切な温度に設定している。季節の野菜の収穫もしている。毎月、その季節に合ったお花を使用したフラワーアレンジメントも行っている。本人の不快や混乱の原因になるものがある場合は、その原因を取り除くようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にご自身の居室で休んでいただいたり、席なども利用者の意向を取り入れ、その時に応じて変えている。仲の良い利用者同士がお互いの居室を訪問し、一緒に話したりして過ごすこともある。リビングでは、皆で仲良くお話をしたり、一緒に歌ったり、遊んだりなど、楽しく過ごしていただいている。また、静かに本を読んで過ごされている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の過ごしやすいよう、使い慣れた家具などを持ってきていただき、自由に配置していただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の性格やADLの度合いをきちんと理解をし、それぞれに応じた生活ができるよう支援している。		